



地震列島日本の謎を探る

日本地質学会編

B6版 236ページ

1,500円(税別)

2000年3月10日発行 東京書籍

世の中のほとんどの人は地球科学に少なからず関心を持っているのではなかろうか。ある人は化石をみて古代の海に思いを馳せ、ある人は美しい鉱物をみて地下深くの地学現象を想像するだろう。またある人は身近に生じる地震や火山の猛威に圧倒されるかもしれない。私は仕事柄しばしば都市域での地質調査を行っているが、その際、通りがかりの人々からよく話しかけられる。そういう時、その地域の地質(地盤)の成り立ちを簡単に話したりすると、多くの人は目を輝かせて聞くものである。要は一般の人々が地球科学に興味を持つには何らかのきっかけが必要なのである。言い換えれば、きっかけさえあれば多くの人々が地球科学に高い関心を示すのである。

本書は日本地質学会の普及教育実行委員会が、近年の学校教育や社会での“地学(地質学)離れ”を危惧して、広く一般に地質学を普及する目的で編集したものである。実際、本書は一般の人々が地質学に興味を持つ“きっかけ”としてふさわしい本に仕上がっている。

本書の章構成は以下のものである。

- 第1章 地球の素顔
- 第2章 地震列島 - その実態を見る
- 第3章 地震列島 - その根元を探る
- 第4章 地震列島 - 各地を診断する
- 第5章 世界の地震
- 第6章 もう一つの日本の姿 - 火山
- 第7章 平野を育む山、川そして海
- 第8章 日本列島の成り立ち

本書には表題の地震の話にとどまらず、火山、平野地質、付加体、日本列島の形成、そして古生物の話まで網羅されている。それぞれには最新の知見

が述べられており、その全てが極めて平易な表現で書かれている。一言で言って、読みやすく分かりやすい、という印象を持った。本のタイトルは「地震列島日本・・・」と「地震」を前面にだしているが、どちらかという地震をひとつのトピックスにして広く日本列島の地質を解説した本といえるだろう。タイトルに「地震列島」と銘打つのは世の中の流れ(人々の興味)というものであろうか。

各章は2~4ページほどに区切られ、そこで話を完結させる形式をとっている。そのため自分の興味によって好きな箇所から読み進めることができる。また各々の話には、「地球事件の捜査」「縄文人のびっくり - 押し寄せる海」「ウェルカム! 丹沢・伊豆」など、一般の人々が興味をそえられるようなタイトルが付けられている。つまり興味を持ったタイトルの話から読み始めればよいのである。これは私を含めた、何事も端折って読む短気な人間にはありがたいことである。なにせ読むのに苦痛を感じさせない。むしろ関連した話を続けて読みたくなるほどである。編者のまえがきには、話ごとに説明が重複している箇所もあると陳謝しているが、途中から読み始める者にとってはかえってそれが読みやすい。しいて言うならば、冒頭から順序良く読んでいく者にとっては、前半の地震を中心とした話と後半の火山や平野、日本列島の成り立ちなどの話とで、それぞれが分離している印象を持つかもしれない。その意味では前半と後半を入れ替え、日本列島の成り立ちなどを踏まえたうえで地震へと話を進めたほうがよかったのかもしれない。その辺は意見の分かれるところだろう。

ともかく本書はこれまでに類を見ない一般向けの分かりやすい地質の解説書である。現在地質学に関わっている方々は、家族、友人に本書を読むことを是非勧めていただきたい。特にお子さんに。また中・高等学校の教員の方々は、生徒さんに勧めていただきたい。このような書物をきっかけに将来地質学を志すようになって欲しいものである。

(中澤 努)